

宮城県慶長使節船ミュージアム サン・ファン館 館長 **平川 新**

未来への航路

ビスカイノの隊列

この地の人たちはスペイン人をまだ見たことがなかったため、「我々を見てたいそう驚いていた」とビスカイノは書いています。日本人の服装とはまるで違うコスチュームであるから、驚くのも無理はない。しかも髪の色が異なっていたらなおさらだ。視覚的な異文化体験だといってよい。

この時期、ビスカイノ一行のほかには仙台領に異国人が来たと思えば宣教師だと思われるが、個人や少人数だったので、それほど目立っていただけではない。だがビスカイノ一行はメキシコ副王の使節であり探検隊であったことから、人員も少なくはなかった。来日したときの船には書記官や測量士、散髪師、船大工、兵士などが乗り込んでいた。

1611年にビスカイノがメキシコから浦賀に到着し、上陸して江戸城に向かった際、長銃・小銃・国旗・王旗と太鼓をもった30人の隊列を組んだとある。太鼓のリズムにあわせながら隊列を整え、足並みをそろえて江戸城に入っていた。道筋には見物人の男女が大勢詰めかけてあふれかえったという(『金銀島日本探検』)。ビスカイノによると、これだけの群衆が集まったのは將軍秀忠が自分の威厳を示すために集めたからだという。異国人が日本の將軍に礼を尽くしていることを民衆に見せるためであった。スペイン大使の側は威風堂々たる行進によってスペインの国威を発揚したが、日本側は大群衆による出迎えて国勢を印象づけた。スペインと日本の双方が、行列パフォーマンスに国の威信をかけていたのである。民衆にとっても慣れぬ異国人を見物できる、またとない機会であった。

黒人への関心

仙台にもビスカイノ

あるから、行軍するときの音楽隊である。仙台城に入るときや城下を移動するときには隊列を組み、ドラムの音に合わせて行進したのだろう。

江戸と同じく仙台でも、ビスカイノは派手な行列を見せることでスペインの威信を誇示した。一方政宗は多くの群衆を集めて、異国人が訪問してくるみずからの立場を知らしめ



南蛮船から荷物をおろす黒人たち「南蛮屏風」狩野道美、wikipedia commons

30 仙台に来た黒人

たのであった。ただ、「司令官の鼓手の黒人」という記事にも注目しておきたい。仙台人たちは行列

界に売り払ったり、アメリカ大陸の植民地事業に奴隷として使役させたりしたのはポルトガル人やスペイン人だった。戦国時代に来航した南蛮船でも多数の黒人を船員として使役し、商人や宣教師の従者としても引き連れていた。その姿は南蛮絵図に書きとめられて

のなかでもとくに、ドラムをたたいている黒人に驚いた。人々は黒人を見るために駆けつけたというから、スペイン人以上に黒人に強い興味をもった。

黒人の黒い肌に驚いた人々は、「黒いものを取り去ってやろうとした」とある。多くの人が近寄って拭き取ってやるような仕事をしていたのだろう。墨を塗っているとも思ったようだ。ビスカイノは「黒人を見世物にして入場料を取れば大きな収入になるだろう」と書いています。アフリカ人を奴隷として商品化し地中海世



ポルトガル人に傘をさす黒人召使い wikipedia commons



ひらかわ・あらた 昭和25年、福岡県出身。東北大学名誉教授。館長に就任した。

東北大学災害科学国際研究所の所長などを経て、平成26-31年度まで宮城学院女子大学学長を務めた。専門は日本近世史、歴史資料保全学。令和4年4月に、3代目のサン・ファン館長に就任した。